

Business Report

ONO'S VIEW

第75期 第2四半期のご報告

2022年4月1日～2022年9月30日

小野薬品工業株式会社

証券コード 4528



Dedicated to the Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第75期第2四半期累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)は、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」の胃がん、食道がんなどでの使用が拡大したほか、糖尿病、慢性心不全および慢性腎臓病治療剤「フォーシーガ錠」などの主要新製品が堅調に推移しました。ロイヤルティ収入も増加し、売上収益が拡大しました。

利益面では、研究開発費などの費用が増えたものの、製品売上が堅調に増加したことを受け、中間期としては売上収益、利益ともに過去最高を達成しました。

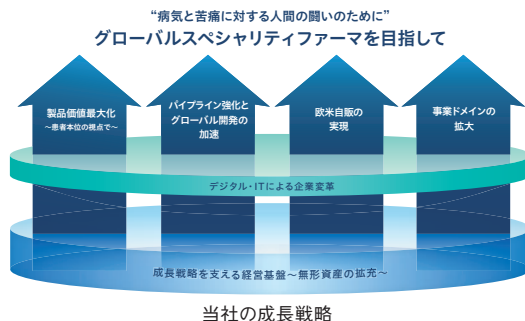
新薬創製の成功確率が年々低下し、研究開発コストが増大する一方、国内では医療費の抑制に向けた薬剤費抑制政策が進んでいます。製薬会社には厳しい環境下ではありますが、わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに革新的な新薬を一日も早くお届けできるよう、一丸となって挑戦を続けてまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 相良 暁

【持続的な成長に向けた成長戦略】

当社では、今後のさらなる持続的な成長を目指し、4つの成長戦略を定めて事業活動に取り組んでいます。また、成長戦略を支える経営基盤として、無形資産の拡充に努めてまいります。



【成長戦略】

▽「製品価値最大化～患者本位の視点で～」

患者さんとその家族の視点に立って、スピーディかつ効果的な開発、競争力のあるマーケティング、そして精緻な情報提供・収集に取り組めます。主力製品の一つであるオプジーボでは、適応がん腫や治療ラインの拡大、併用療法の開発を進めており、製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組んでいます。

▽「欧米自販の実現」

欧米での販売を実現し、より多くの患者さんの医療ニーズに貢献するとともに、持続的な成長を目指します。既に自社販売を開始している韓国、台湾に加え、今後は欧米でも自販を目指します。現在、米国でのONO-4059(ベレキシブル錠)をはじめ、欧米で複数の開発プロジェクトを進めており、早期の自社販売体制を構築します。

▽「パイプライン強化とグローバル開発の加速」

持続的な成長を目指し、がん、免疫、神経、スペシャリティを重点研究領域に据え、世界をリードする大学やベンチャー企業との共同研究・創薬提携を強化するとともに、革新的な化合物の導入を積極的に進め、パイプラインの充実を図っていきます。そして、それらについて、欧米を含むグローバルな臨床開発を加速していきます。

▽「事業ドメインの拡大」

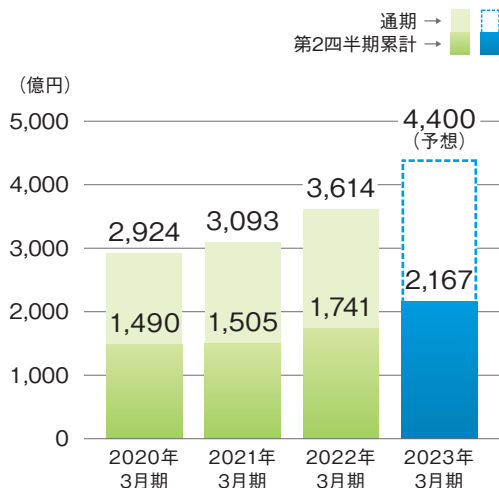
ヘルスケア分野の拡大するニーズをとらえ、新たな価値の提供を目指します。小野薬品ヘルスケア株式会社は本年、蓄積した研究資産を生かし、機能性表示食品睡眠サプリメント「REMWELL(レムウェル)」を発売しました。今後も医療用医薬品で培ったノウハウを活用することで新たな事業を創出し、健康寿命の延伸など社会課題の解決に挑戦します。

【成長戦略を支える経営基盤 ～無形資産の拡充～】

成長戦略を支える経営基盤として、グローバル化を見据えたIT基盤への刷新や、創薬バリューチェーンの変革をはじめとしたデジタルトランスフォーメーションの推進、世界を舞台にビジネスができるグローバル人材や経営人材の育成等の無形資産の拡充に努めてまいります。

売上収益

2,167億円 前年同期比 **24.5%増**

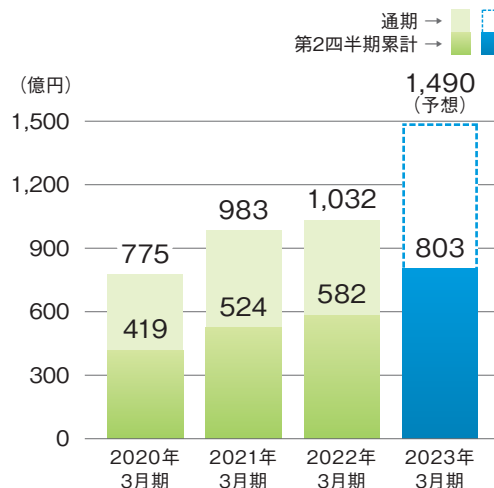


主要新製品の売上増加、ロイヤルティ収入の増加により増収

胃がん、食道がんなどでの使用拡大による「オブジーボ点滴静注」の売上増加、「フォーシーガ錠」「ベレキシブル錠」などの主要新製品の売上増加、ロイヤルティ収入の増加などにより、当第2四半期連結累計期間の売上収益は前年同期比426億円(24.5%)増加の2,167億円となりました。

営業利益

803億円 前年同期比 **38.0%増**

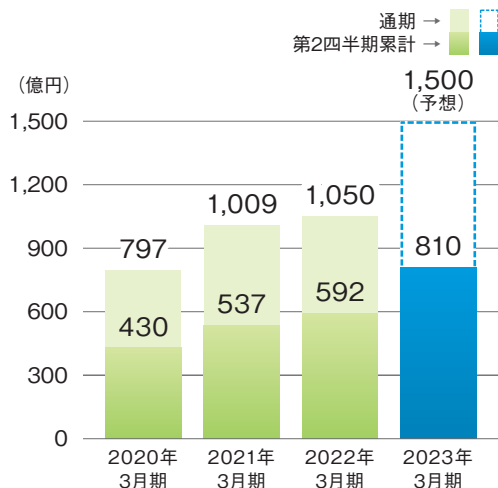


売上原価などが増加するも、売上収益の増加により大幅増益

売上原価、研究開発費、販売費及び一般管理費の増加はあったものの、売上収益の増加により、当第2四半期連結累計期間の営業利益は前年同期比221億円(38.0%)増加の803億円となりました。

税引前四半期利益

810億円 前年同期比 **36.8%増**

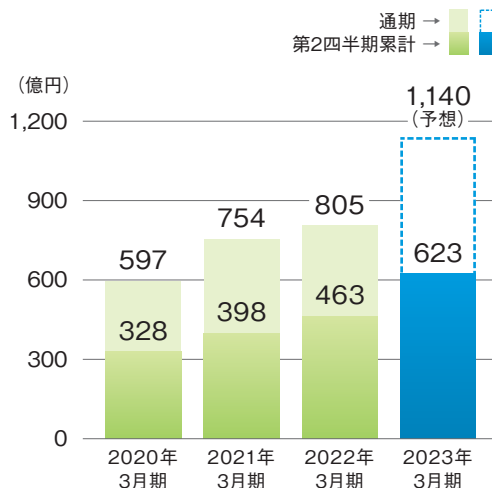


金融収支などは減少するも 営業利益の増加により大幅増益

金融収支などは前年同期比3億円(29.3%)減少の7億円となったものの、営業利益の増加により、当第2四半期連結累計期間の税引前四半期利益は、前年同期比218億円(36.8%)増加の810億円となりました。

親会社の所有者に帰属する四半期利益

623億円 前年同期比 **34.7%増**



税引前四半期利益の増加に伴い 増益

税引前四半期利益の増加に伴い、当第2四半期連結累計期間の親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比160億円(34.7%)増加の623億円となりました。

連結業績ハイライト

財政状態

(単位:百万円)

| | 前期末 2022年3月31日 | 当第2四半期会計期間末 2022年9月30日 |
|----------|-------------------|---------------------------|
| 流動資産 | 281,266 | 339,176 |
| 非流動資産 | 457,937 | 465,831 |
| 資産合計 | 739,203 | 805,008 |
| 負債合計 | 77,529 | 94,632 |
| 資本合計 | 661,674 | 710,375 |
| 負債及び資本合計 | 739,203 | 805,008 |

損益の状況

(単位:百万円)

| | 前第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日 | 当第2四半期累計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日 |
|-------------------|---|---|
| 売上収益 | 174,077 | 216,701 |
| 売上総利益 | 128,510 | 162,990 |
| 販売費及び一般管理費 | △ 37,656 | △ 42,945 |
| 研究開発費 | △ 32,552 | △ 39,628 |
| 営業利益 | 58,171 | 80,270 |
| 税引前四半期利益 | 59,231 | 81,019 |
| 四半期利益 | 46,334 | 62,442 |
| 親会社の所有者に帰属する四半期利益 | 46,290 | 62,339 |

連結持分変動計算書(要旨)

(単位:百万円)

| | 資本金 | 資本 剰余金 | 自己 株式 | その他の 資本の 構成要素 | 利益 剰余金 | 親会社の 所有者に 帰属する持分 | 非支配 持分 | 資本 合計 |
|--------------|--------|-----------|----------|---------------------|-----------|------------------------|-----------|----------|
| 2022年4月1日残高 | 17,358 | 17,241 | △ 74,683 | 51,236 | 644,754 | 655,906 | 5,768 | 661,674 |
| 四半期包括利益合計 | - | - | - | △ 173 | 62,339 | 62,166 | 96 | 62,263 |
| 所有者との取引額等合計 | - | △ 161 | 20,522 | △ 2,223 | △ 31,693 | △ 13,555 | △ 6 | △ 13,562 |
| 2022年9月30日残高 | 17,358 | 17,080 | △ 54,161 | 48,841 | 675,400 | 704,518 | 5,858 | 710,375 |

▶より詳しい業績の情報は、当社のIRサイトをご覧ください。 <https://www.ono-pharma.com/ja/ir/library>

小野薬品 IR

検索

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

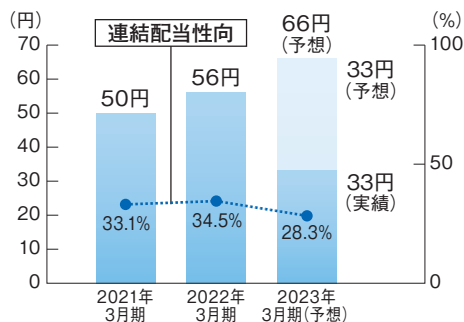
| | 前第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日 | 当第2四半期累計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日 |
|------------------------|---|---|
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 61,045 | 69,112 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 40,369 | 80,977 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 5,385 | △ 37,925 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 14,968 | △ 15,065 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 20,016 | 27,987 |
| 現金及び現金同等物に係る為替変動による影響額 | 56 | 653 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 81,117 | 97,752 |

主要経営指標

| | 前期末 2022年3月31日 | 当第2四半期会計期間末 2022年9月30日 |
|--------------------|---|---|
| 親会社所有者帰属持分比率(%) | 88.7 | 87.5 |
| 1株当たり親会社所有者帰属持分(円) | 1,343.40 | 1,442.73 |
| | 前第2四半期累計期間 自2021年4月1日 至2021年9月30日 | 当第2四半期累計期間 自2022年4月1日 至2022年9月30日 |
| 基本的1株当たり四半期利益(円) | 92.74 | 127.67 |

中間配当金について

〈年間配当実績と当期予想〉



株主の皆さまへの当期の中間配当金につきましては、1株につき33円とさせていただきます。なお、当期の期末配当金につきましても1株につき33円とし、年間にお支払いする配当金は、1株につき66円を予定しています。

主な製品の売上高の状況と見込み

| 製品名 | 当第2四半期 売上高(実績) (億円) | 対前年同期 増減率 | 2021年度 売上高(実績) (億円) | 2022年度 売上高(見込み) (億円) | 対前期 増減率 |
|-------------|---------------------------|--------------|---------------------------|----------------------------|------------|
| オプジーボ点滴静注 | 699 | 24.6% | 1,124 | 1,550 | 37.8% |
| フォシーガ錠 | 264 | 68.8% | 367 | 470 | 28.2% |
| オレンシア皮下注 | 125 | 11.0% | 229 | 230 | 0.5% |
| グラクティブ錠 | 117 | △8.0% | 245 | 230 | △6.3% |
| カイクロリス点滴静注用 | 44 | 6.5% | 84 | 90 | 7.6% |
| パーサビブ静注透析用 | 43 | △5.3% | 89 | 80 | △9.9% |
| ベレキシブル錠 | 41 | 43.4% | 63 | 70 | 11.7% |
| オンジェンティス錠 | 24 | 156.1% | 29 | 50 | 73.6% |
| オノアクト点滴静注用 | 21 | △9.6% | 49 | 45 | △7.6% |
| オパルモン錠 | 23 | △5.9% | 47 | 35 | △26.0% |
| ビラフトビカプセル | 16 | 21.8% | 27 | 35 | 27.4% |
| メクトビ錠 | 13 | 17.5% | 22 | 25 | 11.7% |
| オノンカプセル | 12 | △35.3% | 36 | 25 | △29.7% |

「オプジーボ®点滴静注」、新たな効能・効果の承認を取得

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ®点滴静注」について、効能・効果が拡大されました。

日本では、2022年5月にヤーボイ（一般名：イピリムマブ）との併用および化学療法の併用による根治切除不能な進行・再発の食道がんに対する承認を取得しました。なお、食道がんにおいては、2020年2月に二次治療について、2021年11月には術後補助療法についても承認を取得しています。

台湾では、2022年4月、尿路上皮がんにおける術後補助療法に対する追加承認を取得しました。また、2022年5月には、カボザンチニブとの併用による未治療の進行腎細胞がんに対する追加

承認も取得しました。また、2022年7月には、以下の2つの併用療法による進行または転移性食道扁平上皮がんの一次治療に対する効能または効果の追加承認を取得しました。

- ① オプジーボとヤーボイ（一般名：イピリムマブ）点滴静注液との併用療法
- ② オプジーボとフルオロピリミジン系およびプラチナ系薬剤を含む化学療法との併用療法



国内で承認されたオプジーボの適応がん腫（2022年9月時点）

| | |
|---------------------|--|
| 悪性黒色腫 | がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する結腸・直腸がん |
| 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 | |
| 根治切除不能又は転移性の腎細胞がん | 根治切除不能な進行・再発の食道がん |
| 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫 | |
| 再発又は遠隔転移を有する頭頸部がん | 食道がんにおける術後補助療法 |
| 治癒切除不能な進行・再発の胃がん | 原発不明がん |
| 切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫 | 尿路上皮がんにおける術後補助療法 |

「オノアクト[®]」、小児の心機能低下例における頻脈性不整脈の効能・効果を取得

2022年8月、短時間作用型 β 1選択的遮断剤「オノアクト[®]」について、小児の心機能低下例における頻脈性不整脈（上室頻拍、心房細動、心房粗動）に対する効能または効果の追加承認を取得しました。小児では体格や年齢によって、非薬物治療が困難な場合があることから、薬物治療が重要かつ主たる治療手段となりますが、国内で小児適応が認められている抗不整脈薬は限られており、オノアクトが小児の心機能低下例における頻脈性不整脈の新たな治療選択肢になるものと期待しています。

売上収益

4,400億円 前期比 **21.8%増**

「オプジーボ点滴静注」は、胃がん、食道がんなどでの使用拡大を見込んでおり、426億円(37.8%)増加の1,550億円を予想しています。また、主要製品の売上拡大に加え、ロイヤリティ収入は円安による増収効果などで引き続き伸長する見込みであり、通期の売上収益は前期比786億円(21.8%)増加の4,400億円を予想しています。

営業利益

1,490億円 前期比 **44.4%増**

製品商品の売上増加に伴い、売上原価は前期比155億円(16.6%)増加の1,090億円を予想しています。研究開発費は積極的な投資に加え、為替の影響などにより前期比151億円(19.9%)増加の910億円、販売費及び一般管理費は前期比129億円(16.8%)増加の900億円を見込んでおり、通期の営業利益は前期比458億円(44.4%)増加の1,490億円を予想しています。

税引前当期利益

1,500億円 前期比 **42.8%増**

金融収支などは、前期比8億円(45.3%)減少の10億円を見込んでおり、通期の税引前当期利益は前期比450億円(42.8%)増加の1,500億円を予想しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益

1,140億円 前期比 **41.6%増**

通期の親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期比335億円(41.6%)増加の1,140億円を予想しています。

開発品の主な進捗状況

開発品の主な進捗状況

(2022年10月28日現在)

■ がん領域の主な進捗状況

| 製品名／開発コード／一般名 | 剤型 | 予定効能 | 開発ステージ | | | | 国・地域 |
|---------------------|------|------------------|--------|----|----|----|----------|
| | | | PI | PⅡ | PⅢ | 申請 | |
| オブジーボ点滴静注 | 注射 | 肝細胞がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国 |
| | | 卵巣がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| | | 膀胱がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| | | 前立腺がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| ヤーボイ点滴静注液* | 注射 | 胃がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| | | 食道がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 韓国 |
| | | 尿路上皮がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| | | 肝細胞がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本・韓国・台湾 |
| ONO-7913/Magrolimab | 注射 | TP53変異陽性急性骨髄性白血病 | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |
| | | 急性骨髄性白血病 | ■ | ■ | ■ | ■ | 韓国・台湾 |
| | | 膵がん* | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |
| | | 結腸・直腸がん* | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |
| | | 固形がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |
| | | 骨髄異形成症候群 | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |
| ピラフトピカプセル | カプセル | 甲状腺がん | ■ | ■ | ■ | ■ | 日本 |

★「オブジーボ」との併用試験

※がん領域の開発品において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しています。

開発品の主な進捗状況

| 製品名／開発コード／一般名 | 剤型 | 予定効能 | 開発ステージ | | | | 国・地域 |
|----------------------|----|---------------------|--------|-----|------|----|------|
| | | | PI | PII | PIII | 申請 | |
| メクトビ錠 | 錠 | 甲状腺がん | ■ | ■ | | | 日本 |
| ONO-4686* | 注射 | 固形がん | ■ | ■ | | | 日本 |
| ONO-4482*/Relatlimab | 注射 | 悪性黒色腫 | ■ | ■ | | | 日本 |
| ONO-7475 | 錠 | 固形がん* | ■ | | | | 日本 |
| | | EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がん | ■ | | | | 日本 |
| ONO-4578 | 錠 | 結腸・直腸がん* | ■ | | | | 日本 |
| | | 膵がん* | ■ | | | | 日本 |
| | | 非小細胞肺がん* | ■ | | | | 日本 |
| | | 固形がん・胃がん* | ■ | | | | 日本 |
| | | ホルモン受容体陽性HER2陰性乳がん | ■ | | | | 日本 |
| ONO-7119*/Atamparib | 錠 | 固形がん | ■ | | | | 日本 |
| ONO-7122* | 注射 | 固形がん | ■ | | | | 日本 |
| ONO-7914* | 注射 | 固形がん | ■ | | | | 日本 |
| ONO-4059 | 錠 | 中枢神経系原発リンパ腫 | ■ | ■ | | | 米国 |
| ONO-4685 | 注射 | T細胞リンパ腫 | ■ | | | | 米国 |
| ONO-7018 | 錠 | 非ホジキンリンパ腫、慢性リンパ性白血病 | ■ | | | | 米国 |

★「オブジーボ」との併用試験

※がん領域の開発品において、同じ予定効能(がん腫)の場合は、最も進んでいるフェーズ(臨床ステージ)を記載しています。

■ がん領域以外の主な進捗状況

| 製品名／開発コード／一般名 | 剤型 | 予定効能 | 開発ステージ | | | | 国・地域 |
|---------------------|----|------------|--------|-----|------|----|-------|
| | | | PI | PII | PIII | 申請 | |
| ベレキシブル錠 | 錠 | 天疱瘡 | | | | | 日本 |
| | | 全身性強皮症 | | | | | 日本 |
| ONO-2017/Cenobamate | 錠 | てんかん強直間代発作 | | | | | 日本 |
| | | てんかん部分発作 | | | | | 日本 |
| ONO-2910 | 錠 | 糖尿病性多発神経障害 | | | | | 日本 |
| ONO-2808 | 錠 | 神経変性疾患 | | | | | 日本・欧州 |
| ONO-4685 | 注射 | 自己免疫疾患 | | | | | 日本・欧州 |
| ONO-7684 | 錠 | 血栓症 | | | | | 欧州 |
| ONO-2020 | 錠 | 神経変性疾患 | | | | | 米国 |

新薬開発の流れ

基礎研究

薬になる可能性がある新規物質（有効成分）の探索を行います。天然素材からの抽出や、化学合成、バイオテクノロジーなどの手法を活用して、新規物質を創製します。

非臨床試験

薬になる可能性がある物質について、動物や培養細胞を用い、有効性と安全性を調べます。また、その薬物動態や品質、安定性なども調べます。

臨床試験（治験）

薬の候補物質（治験薬）について、ヒトに対する有効性と安全性を調べるために行う試験で、通常は3段階に分かれています。健康な人や実際の患者さんを対象に実施されます。

第I相試験（フェーズI：PI）
健康者による安全性の確認

第II相試験（フェーズII：PII）
少数の患者さんによる有効性と安全性の確認

第III相試験（フェーズIII：PIII）
多数の患者さんによる有効性と安全性の確認

承認申請と審査

臨床試験で有効性と安全性が確認された後、医薬品医療機器総合機構（PMDA）に承認の申請を行います。その後、学識経験者などで構成する薬事・食品衛生審議会などで審査されます。審査を通過すると、新薬として製造が承認されます。

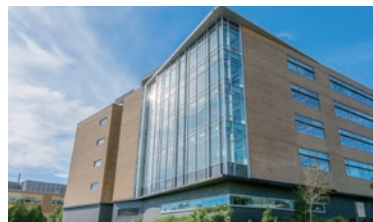
提携活動

■ Domain Therapeutics社、Montréal大学と創薬提携

2022年4月、フランスのDomain Therapeutics (ドメイン社) およびカナダのUniversité de Montréal (モントリオール大学) と、新たに代謝性疾患領域におけるGタンパク質共役受容体 (GPCR) を標的とした新規の低分子化合物の創製を目的とした創薬提携契約を締結しました。本契約に基づき、ドメイン社がモントリオール大学から導入したGPCR創薬プラットフォームであるbioSens-All[®] 技術、およびGPCR創薬におけるGPCRに対する革新的な低分子化合物の創製に取り組みます。



ドメイン社



モントリオール大学 (Photo: Grégory Emery)

■ 米国Fate Therapeutics社と提携を拡大



フェイト社

2022年6月、米国Fate Therapeutics, Inc. (フェイト社) と、2018年9月に締結したiPS細胞由来のキメラ抗原受容体 (CAR) -T細胞治療薬の創製を目的とする創薬提携を拡大する契約を締結しました。今回の創薬提携の拡大で、固形がんに対する二つ目の標的をフェイト社に追加提供するとともに、iPS細胞由来CAR-T細胞に加えてCAR-NK細胞を追加し、がん患者さんにとってファーストインクラスの新たな細胞治療法の開発を目指します。

共同研究

■ 株式会社ナレッジパレットと共同研究の拡大についての契約を締結

2022年8月、株式会社ナレッジパレット (本社: 神奈川県川崎市) と、同社の大規模トランスクリプトーム解析技術を活用した、データ駆動型の新薬創出基盤の構築を目的とする共同研究を拡大する契約を締結しました。今回の共同研究の拡大により、多種類の化合物で処理したヒト細胞や遺伝子機能阻害等の摂動を与えたヒト細胞における遺伝子発現パターンの全体像を、ナレッジパレットが有する大規模ト

ランスクリプトーム解析技術を活用して、データベース化します。そのデータベースを活用して、得られる網羅的細胞データを情報科学的アプローチにより解析することで、数多くの新規創薬標的となりうる分子メカニズムを明らかにし、データ駆動型の新薬創出の基盤構築に取り組みます。将来的には、より大規模に高精度な網羅的細胞データを追加取得し、広範な疾患領域に対して新規の創薬仮説を創出することに期待しています。



ナレッジバレットの研究所が入る
クリエイティブラボ神戸（建物左）

子会社の設立

■ 小野薬品ユーディ株式会社を設立

2022年4月、障がいのある方の雇用という社会課題の解決に貢献することを目指し、当社全額出資の子会社「小野薬品ユーディ株式会社」を設立し、10月に特例子会社[※]として認定されました。まずは印刷事業から手掛け、多種多様な業務においても障がいのある方が働きがいをもって、能力を十分に発揮できる機会を提供していきます。

[※]特例子会社：「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、企業が障がいのある方の雇用の促進を目的に設立する子会社のことです。親会社が障がい者の雇用に特別な配慮をした子会社を設立した場合、一定の要件を満たし厚生労働大臣の認定を受けることで、親会社と合わせて障がい者の雇用率を算定できます。

■ 小野デジタルヘルス投資合同会社、業務を開始

2022年7月、医薬品事業以外のヘルスケア分野のベンチャー企業等へ投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)として設立した「小野デジタルヘルス投資合同会社」(2022年3月設立)が投資事業を開始しました。ヘルスケア分野への関心が高まるなか、デジタル技術を活用して疾病予防やQOL(生活の質)の向上など、健康に関する社会課題の解決に取り組むベンチャー企業が増えており、同社は、国内外の有望なベンチャー企業と、当社および関係会社との協業等を通じて、健康寿命の延伸と持続可能な社会の実現に取り組みます。

なお、創薬関連のバイオベンチャー企業等への投資は、2020年5月に米国で設立したCVC「Ono Venture Investment, Inc.」が、引き続き取り組んでいます。

【小野デジタルヘルス投資合同会社のホームページ】 <https://www.onodigitalhealth.com/ja> ▶



CSR活動

■ ESG投資指数の構成銘柄に継続選定

2022年度も、以下の各団体が提供するESG(環境・社会・ガバナンス)投資指数の構成銘柄に選定されました。

| | |
|------|--|
| 5年連続 | <ul style="list-style-type: none"> ・「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」 (東京証券取引所およびS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社) ・「FTSE4Good Index Series」 「FTSE Blossom Japan Index」(FTSE Russell 社)    |
| 4年連続 | <ul style="list-style-type: none"> ・「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」(MSCI社)  |
| 新規 | <ul style="list-style-type: none"> ・「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」 (FTSE Russell 社)  |

なお、「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「FTSE Blossom Japan Index」、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」および「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」は、世界最大規模の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が投資対象を選定するにあたり採用している指数です。

免責事項:

小野薬品工業株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、本件お知らせにおける本投資法人によるMSCI社のロゴ・商標・サービスマーク並びにインデックス名の使用は、MSCI社及びその関係会社による小野薬品工業株式会社へのスポンサーシップ、宣伝、販売促進を企図するものではありません。MSCI指数はMSCI社に独占権があり、MSCI社及びMSCI指数及びそのロゴは、MSCI社及びその関連会社の商標・サービスマークです。

コーポレートレポート2022を発行

2022年9月、当社の情報を網羅した統合報告書「コーポレートレポート 2022」を発行しました。

これまでの会社のあゆみや、経営方針、研究開発状況、人財やデジタル・ITに関する取り組みなどに加え、今回は2021年度に再特定した18の経営全般のマテリアリティ(重要課題)について詳しく紹介しています。

また、トップメッセージや、経営トップと社外取締役3名が当社の現状や将来の成長に向けた展望などについて語り合った対談などもあり、当社の今がよくわかる一冊になっています。

レポートは当社ホームページに掲載しております。下記の2次元コードからぜひご覧ください。



【コーポレートレポート 2022】

https://www.ono-pharma.com/ja/ir/library/integrated_report.html



■ 会社概要

| | |
|------|------------------------------------|
| 社名 | 小野薬品工業株式会社 |
| 英文社名 | ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD. |
| 創業 | 享保2年(1717年) |
| 設立 | 昭和22年(1947年) |
| 資本金 | 17,358,275,607円 |
| 事業内容 | 医療用医薬品を主体とする各種医薬品の研究、開発、製造、仕入および販売 |
| 従業員数 | 3,765名(連結) 3,399名(単体) |

■ 主要な事業所

| | |
|-------|---|
| 本社 | 〒541-8564 大阪市中央区久太郎町一丁目8番2号 電話 06-6263-5670 〔登録簿上の本店所在地 大阪市中央区道修町二丁目1番5号〕 |
| 事業所 | 札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、京都、 大阪、高松、広島、福岡ほか全国主要都市 |
| 工場等 | フジヤマ工場(静岡県)、山口工場(山口県)、 城東製品開発センター(大阪府) |
| 研究所 | 水無瀬研究所(大阪府)、 筑波研究所(茨城県) |
| 海外子会社 | オノ・ファーマ・ユー・エス・イー・インク(米国マサチューセッツ州) オノ・ファーマ・ユー・ケー・リミテッド(英国ロンドン) 韓国小野薬品工業株式会社(韓国ソウル) 台湾小野薬品工業股份有限公司(台湾台北) |

■ 役員

| | |
|----------------|---------|
| 代表取締役 取締役社長 | 相良 暁 |
| 取締役 専務執行役員 | 辻中 聡 浩 |
| 取締役 専務執行役員 | 滝野 十一 |
| 取締役 常務執行役員 | 小野 功 雄 |
| 取締役 常務執行役員 | 出光 清 昭 |
| 社外取締役 | 野村 雅 男 |
| 社外取締役 | 奥野 明 子 |
| 社外取締役 | 長 榮 周 作 |
| 常勤監査役 | 西村 勝 義 |
| 常勤監査役 | 谷坂 裕 信 |
| 社外監査役 | 菱山 泰 男 |
| 社外監査役 | 田辺 彰 子 |



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された、「企業理念」が刻まれた石碑

株式の状況 (2022年9月30日現在)

■ 株式数

1. 発行可能株式総数 1,500,000,000株
2. 発行済株式の総数 517,425,200株
(自己株式29,025,869株を含む)

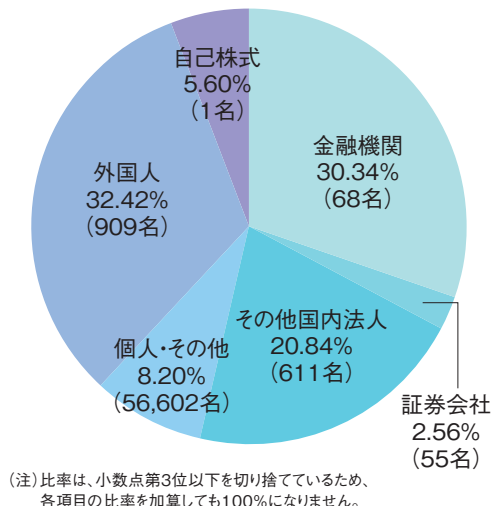
■ 株主数 58,246名

■ 大株主

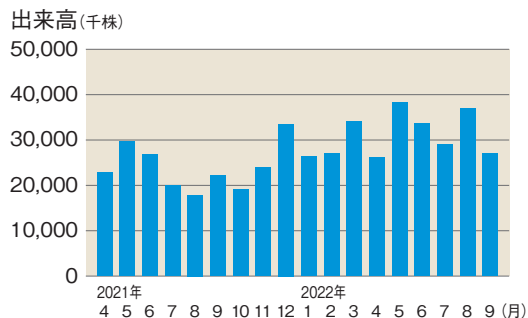
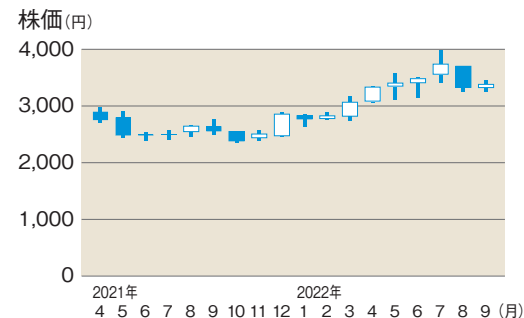
| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|---|-------------|-------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 67,401 | 13.80 |
| 株式会社日本カस्टディ銀行(信託口) | 25,225 | 5.16 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001 | 21,704 | 4.44 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 18,594 | 3.80 |
| 公益財団法人小野奨学会 | 16,428 | 3.36 |
| 株式会社鶴鳴荘 | 16,161 | 3.30 |
| ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234 | 8,986 | 1.84 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 8,640 | 1.76 |
| あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 | 7,779 | 1.59 |
| ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) アカUNT ノントリーティー | 7,098 | 1.45 |

- (注) 1. 当社は自己株式29,025千株を保有していますが、上記大株主には記載していません。
2. 持株比率は、自己株式(29,025千株)を控除して算出しています。

■ 所有者別の株式分布状況



■ 株価および株式売買高の推移



株主メモ

| | | | |
|---------|--|-------------------------------|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで | 株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 定時株主総会 | 6月中 | 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 基準日 | 定時株主総会・期末配当：3月31日 中間配当：9月30日 | 郵便物送付先 および 各種お問合せ先 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く) |
| 公告の方法 | 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告を掲載するホームページのアドレス https://www.ono-pharma.com/ja | 同取次窓口 | 三井住友信託銀行株式会社 全国本支店 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所(証券コード4528) | | |
| 単元株式数 | 100株 | | |

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となりますので、株主様のマイナンバーにつきましては、お取引の証券会社等へお届出ください。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、株主様のマイナンバーは支払調書に記載して税務署へ提出いたします。

- **マイナンバーを記載する主な支払調書**
 - 配当金に関する支払調書
 - 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

- **証券口座にて株式を管理されている株主様**
お取引の証券会社までお問合せください。
- **証券会社とのお取引がない株主様**
下記のフリーダイヤルまでお問合せください。
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間 9:00～17:00(土日休日を除く)

ホームページアドレス

<https://www.ono-pharma.com/ja>

